

文化財をたずねて 黒田家・官兵衛ゆかりの地 (姫路市東部)めぐり

⑥御着城跡 (御国野町御着)

別名天川城とも茶臼山城とも呼ばれ、永正十六年(一五一九)小寺政隆が築城したと言われるが、嘉吉年間(一四四一〜四四四)にはすでに構居が設けられていたとされ、明応四年(一四九五)には赤松氏の段銭奉行として税を集める納所が設けられていたとも伝わる。宝暦五年(一七五五)の「播州飾東郡御野庄御着茶臼山城地絵図」(天川家所蔵)によると、御着城は、西と南は天川を利用した二重の堀、東と北は四重の堀を廻らした城郭で、茶臼山という高さ約5mの丘の上に本丸と二の丸を設け、外郭部には家中屋敷・町家を包含した総構の城であった。官兵衛はここで小寺政隆の近習を務め、父職隆から小寺家の家老を継いだ。天正七年(一五七九)十二月、政職が信長に叛旗を翻したため秀吉に攻められ、御着城は六〇年の歴史の幕を閉じた。今は本丸跡に城をイメージした姫路市東出張所が建っている。

⑦小寺大明神 (御国野町御着)

本丸跡を国道二号が貫く歩道橋の南に、小寺政隆・則職・政職の三代城主と天正七年(一五七九)の戦いで亡くなった人々たちを祀る小さな祠がある。毎年四月二十九日には小寺家・黒田家・天川家の子孫と関係者による慰霊祭が行われている。

⑧黒田家廟所 (御国野町御着) 姫路市指定史跡

城址公園の西に、南面した木造廟屋がある。二基の五輪塔は、向かって左が官兵衛の祖父とされる黒田重隆、右が母明石氏(職隆夫人)の墓標で、高さ一五九・四cm、一五九・一cm、白色の花崗岩に法名・没年月日・氏名が彫られている。正面五文字には金箔が施され、基礎正面の法名には朱が残っている。石材が畿内近国の産石でなく、構造形式・手法も異様であることから、造立者黒田氏の本拠・福岡で製作されたものが船で運ばれ、享和二年(一八〇二)当地で組み立てられたものとされる。重隆と明石氏はもともと佐土の心光寺に葬ってあったが、天正十五年(一五八七)現在地に改葬したと言われている。廟屋廻りの玉垣等の石は竜山石で、現在の廟屋は昭和四三年(一九六八)黒田家によって修復されたもの。

⑨牛堂山国分寺 (御国野町国分寺)

「播磨里翁説」によると、天正六年(一五七八)四月毛利軍が上月城を囲んだ時、秀吉軍は直ちに上月城へ救援に向かった。この際に乗じて別所軍が東から姫路城を陥れようとし、兵を率い東方から攻め寄せた。官兵衛は急遽姫路に引き返し国分寺に拠ってこれを撃退しようとしたが、別所軍は秀吉の助勢が来ると思っ、国分寺に火を放ち、堂僧坊は一時に消失したという(「姫路城史」)。一带は国指定史跡「播磨国分寺跡」である。

⑩松原八幡神社 (白浜町)

天正五年(一五七七)羽柴秀吉が播磨の諸城を攻略した時、松原八幡神社と八正寺は秀吉方に属し、別所長治と対立したため、別所氏を支援する毛利輝元の軍船が襲来して兵火にかかったという。また、天正九年(一五八一)には、羽柴秀吉は松原八幡神社を城南芝原(現在の豊沢町)に移すよう命じたが、松原の地は由緒ある地であることを理由に移転を拒んだために秀吉の勘気に触れ、千石千貫あった社領を六〇石に減じられたという(「飾磨郡誌」)。地元では、この時官兵衛が松原八幡宮のこの地での存続を懇願し、天正十二年(一五八四)拝殿を寄進したと伝わる。また、黒田二十四騎の一人、井上九郎右衛門之房は松原出身といわれている。

⑪国府山城跡 (妻鹿)

市川のそば、標高一〇二・五mの甲山にあって、妻鹿城・功山城などともいう。もと九州の産の妻鹿孫三郎長宗が元弘の頃、赤松の幕下に属し居城したという。天正八年(一五八〇)官兵衛が姫路城を秀吉に譲って国府山城に移り住んだというが、『黒田家譜』には出てこない。頂上から瀬戸内海・英賀城が見渡せ、姫路城・広峰・置塩・書写の山々が見えることから、姫路城の防備には絶好のロケーションであることが分かる。

⑫黒田職隆廟所 (妻鹿) 姫路市指定史跡

天明三年(一七八三)、心光寺の僧入誉より国府山城主の塚が妻鹿村で発見されたという報告を受け、福岡藩が現地に役人を派遣して調査の上整備した廟所である。五輪塔は、風化が激しく、正面にあった「満誉宗圓大禅定門 天正十三酉八月廿二日」と地輪左にあった「黒田」の銘はほとんど見えなくなっているが、『播磨古事』(福岡市博物館蔵)等の古文書から、天正十三年(一五八五)に亡くなったとされる官兵衛の父職隆の五輪塔であろう。以前から地元では「チクゼンさん」と呼ばれていた。廟屋は昭和五二年(一九七七)妻鹿自治会によって修築された。

⑬播磨国総社 (総社本町)

『射楯兵主神社史』(射楯兵主神社史編纂委員会)によれば、永祿一〇年(一五六七)職隆が当時老朽化していた拝殿・神前御門を板書きから瓦葺に改め再建。天正五年(一五七七)六月十一日の「一ツ山祭」も執行したとある。また、天正八年(一五八〇)九月官兵衛が初めて掛東郡において一万石を与えられ大名に列せられた時、黒田家の旗印(はたじるし)を制定、播磨国総社で祈禱を受けたという。そして、天正十二年(一五八四)官兵衛はさらに制札を与え、総社の保護に努めた。

⑭姫路城 (本町) 国指定特別史跡

『黒田家譜』に官兵衛の誕生を「天文一五年(一五四六)十一月二十九日の刻、姫路に産めり」と記している。永祿四年(一五六一)職隆が姫路城を改修、「本丸、二の丸から成り、櫓を掻きあげ、石垣を疊み、塀を築き、堀を廻らし、大手門を始め幾多の門を構へた」とある(「姫路城史」)。三木城落城後、秀吉は姫路城を本拠に定め、官兵衛らにその普請を命じた。秀吉時代のものでと思われる野面積の石垣が上山里曲輪下段菱の門東方、二の丸北方などに残っている。現在残る城郭は慶長年間に池田輝政により築城されたもの。

コース案内

【御着コース】

■起点：JR御着駅↓五六〇m↓小寺大明神↓(五〇m)↓御着城跡・黒田家廟所・旧天川橋↓(一km)↓壇場山古墳↓(二〇〇m)↓山之越古墳↓(四五〇m)↓牛堂山国分寺↓(六〇〇m)↓終点：JR御着駅

【妻鹿コース】

■起点：山陽電車妻鹿駅↓(四七〇m)↓黒田職隆廟所↓(二二〇m)↓元宮八幡神社↓(六七〇m)↓荒神社↓(約二十分)↓国府山城跡山上↓(約十五分)↓荒神社↓(八八〇m)↓妻鹿町史料館(一km)↓浄照寺↓(五〇m)↓松原八幡神社↓(二五〇m)↓終点：山陽電車白浜の宮駅

表紙写真 御着城跡

姫路市東部は、黒田家が姫路に根を下ろし、中播磨に勢を張っていた小寺家の家老として力を伸ばしていった舞台である。ここには、重隆・明石氏・職隆の廟所をはじめ、黒田家並びに秀吉の播磨平定にゆかりのある城跡・構居・神社・仏閣、官兵衛の有力家臣たちの出身地が数多く点在している。これらを組み合わせることで、黒田家発展の、また官兵衛の雄飛した物語を辿ることができるであろう。

①南山田城跡 (山田町南山田)

南山田の中央北よりに標高四八mの城山(一部「南山田児童公園」になっている)があり、藪の中に三段の平坦地が戦国時代の丘城の遺構を留めている。後藤基国によって築かれたと伝わる。後藤氏は別所氏に仕えていたが、秀吉に叛くと、子の基次(後藤又兵衛)は黒田官兵衛の客分となったという。

②有明山構居跡 (増位山)

有明山構居は「地藏院」とも称し、黒田職隆の弟(高友)が「安芸法印休無(休夢)」と名乗って、ここを姫路城の北の守りとしていた(「飾磨郡誌」)。天正元年(一五七三)八月十二日、三木の別所長治八〇〇騎が増位山を襲い、寺を破却、随願寺僧侶ら二〇〇余人が嵐山(現在の景福寺山)に避難した。和歌や茶にも秀でた休夢は後に秀吉のお伽衆として秀吉に仕えている。

現地は随願寺境内から梅林を抜けて遊歩道を登ると有明の展望台に出る西の山で、山頂に東西三〇m、南北一八mの削平地、東・南・西の三方に堀、西に土塁が残る。

③広峯神社・御師屋敷跡 (広峰山)

広峯神社は要害のうえ有力国人らの分家が御師(大夫)となつて多くの屋敷を構えていた。『夢幻物語』によると、官兵衛の祖父重隆が広峯神社の井口大夫と会い、御師が配り歩く神符(おふだ)に付ける目葉の調合を頼まれたとあるが、これは黒田家が御師との結び付きから勢力を蓄えていったの

ではないかという説に基づいている。現在も広峯神社の周辺で多くの御師屋敷跡を見ることができ。

④實貞山心光寺 (北平野台)

心光寺の前身は佐土村(別所町佐土)の真言宗梨原寺で、御着城主小寺氏の菩提寺であったが、政隆・則職が一向宗を信奉したこと、熱心な浄土宗信者であった職隆夫人明石氏の死去を契機として、職隆が梨原寺を浄土宗寺院に改宗・改築、黒田家の菩提寺とした。心光寺はその後職隆に随従して佐土村から姫路に移り、姫路城主池田輝政の町割りの際に坂田町へ移され、現在地には平成二年(一九九〇)六月に移っている。心光寺には「重隆公、重隆公内室、職隆公、職隆公内室、孝高公、友氏公」の位牌を祀った黒田家御霊屋とともに職隆廟所から移築した門、灯籠等が残されている。

⑤深志野構居跡 (御国野町深志野)

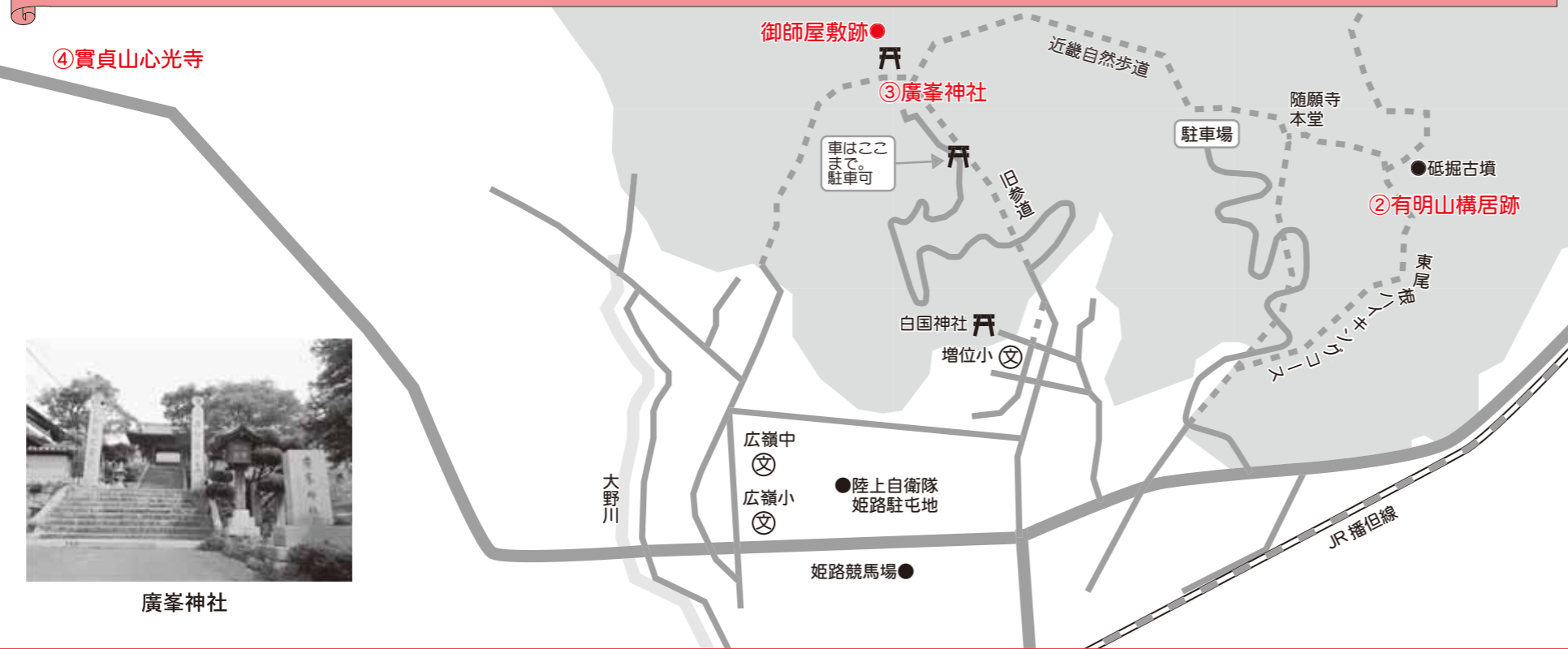
『飾磨郡誌』に「播磨里翁説」として「深志野の構居は御着の枝城にして、領主は小寺孫四郎又小寺官兵衛といふ、三木の城主別所孫三郎が官兵衛の館に逆に押寄せけるといふは即ち此構居也、官兵衛は御着小寺の家臣にして一時は深志野の構居に居住するといへり、今この構居址の南に馬場の跡あり」とある。五社宮神社近辺に「門前」「構居所」という地名があり、地元では浦山麓に家老屋敷や侍屋敷があったといわれ、別所軍を撃退したと伝わる。

②有明山構居跡 ③廣峯神社・御師屋敷跡 ④實貞山心光寺

④實貞山心光寺



廣峯神社



①南山田城跡



⑤深志野構居跡



妻鹿コース (※ルートマップ)



⑬姫路城・⑭播磨国総社



御着コース (※ルートマップ)

